

英語教育とグローバル人材の育成

専門分野

英語教育

キーワード

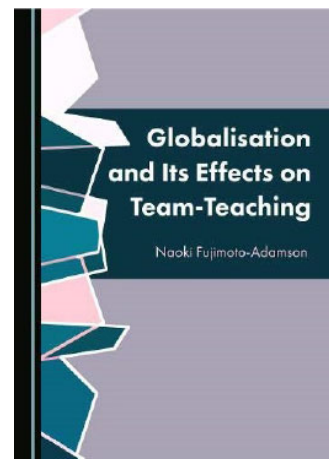
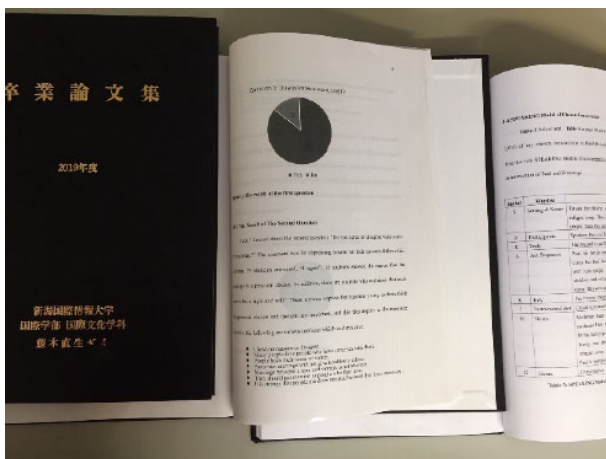
チームティーチング 英語で学ぶ専門科目
英語で執筆する卒業論文

研究目的・概要

現在、私は英語教育に関する2つのプロジェクトに取り組んでいます。

1 つ目は、小学校から中学・高校の英語教育で行われている、日本人英語教員と外国人 ALT（英語指導助手）とのチームティーチングです。私は大学卒業後 1990 年代に長野県で公立中学校の英語教員となり、国籍や文化の違いと授業をすることの面白さと難しさを経験しました。1998 年から 2002 年にかけてイギリスへ留学し、大学院の修士・博士課程でチームティーチングについて研究する機会に恵まれました。その際に学んだことは、教室で繰り広げられる授業は社会の縮図であるということです。そこで、ALT とのチームティーチングについて、政治、経済、文化などの社会的な背景を含めて、日本人英語教員と ALT、そして生徒たちとの関係がどのように授業に影響を与えているかを研究しています。さらに、どのようにしたらチームティーチングを効果的に行うことができるかを模索し、教育現場に携わる方々に提案していきたいです。

2 つ目のプロジェクトは、大学における英語で学ぶ専門科目と英語で執筆する卒業論文の指導についてです。最近では教科として学ぶ英語のみならず、「道具」として使うことの必要性が出て来ました。本校でも、英語を教科として学ぶことに加えて、「社会言語学」などの専門科目を英語で学ぶ Learning in English などの授業があり、さらにそこで学んだ知識を活かして、英語で卒業論文を書くゼミもあります。私は 2014 年に本校に着任してから、ゼミで学生たちに英語で卒論を執筆することに取り組んでおり、40 名以上の学生たちが英語で卒論を書き上げました。しかし、母語でない英語でしかも日本語で書くのもむずかしい卒論をどうやって完成させるのかを、海外の大学とも協力しながら研究しています。例えば、スウェーデンのダーナラ大学の学生たちに本校の卒論発表会をオンラインで見学してもらったり、逆にダーナラ大学の学生たちの発表を本校の学生たちが見学する機会も作っています。そのような教育・研究活動に必要なことは、必ずしも教員主導のトップダウンな教育が効率的であるとはいえ、学生たちの横のつながりが重要であることが分かって来ました。



国際学部 国際文化学科
藤本 直生 准教授

担当科目：英語関連科目（Learning in English, Reading and Writing 等）

HP

https://www.nuis.ac.jp/teacher_fujimoto/

Researchmap

<https://researchmap.jp/Fujimoto-Adamson>